



BOB会 関東支部だより

JTBグループ OB・OG会
関東支部

〒110-0005 東京都台東区上野1-10-12 商工中金・第一生命上野ビル7階
電話 03-6284-4875 FAX 03-6284-4876
関東支部ホームページアドレス http://jtbob.com/kanto_hp/index.html



12/1

2020年
(令和2年)

第349号

発行: BOB会関東支部

お客様紹介運動 上期実績

今年度上期は、コロナ禍の影響をもろに受ける結果となりました。旅行紹介は、前年を大きく下回り、特に5月は紹介実績0件となりました。これは紹介運動開始以後初めてのことです。それでも、GOTOトラベルキャンペーン開始以降以降、申し込みが徐々に増え始め、9月実績で、件数18件、対前年64%まで回復してきました。

7月理事会で、経営状況が厳しいJTBの応援をすることを決議しました。第1弾としてナイスギフトの上期実績は件数・金額共に前年を上回る結果となりました。マスク着用や三密回避、外出自粛など厳しい状況の中ご協力くださった会員の皆様に心より感謝申し上げます。

◎旅行紹介 (前年比)
件数40件 (26%)
金額6003千円 (10%)
◎ナイスギフト (前年比)
件数122件 (111%)
金額5623千円 (117%)
たびたび & 「おせちの鉄人」購入
了承ください。

支部主催の新年会は中止!

毎年恒例の支部主催の新年会は中止します。新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、安全安心の観点からの判断です。悪しからずご了承ください。

俱楽部だより

費用	募集	費用	募集	期日	場所	集合	担当
募集 5組 プレ1費 20名	4組 16名	費用 （諸税・昼食込） 6800円	費用 （諸税・昼食込） 6800円	1月20日(水) 1月12日(火)	星の宮カントリー俱楽部 羽村駅構内	7時50分 8時35分	百戸 正行 090-6515-0672

第86回ゴルフコンペ ときわ路俱楽部（募集）

お申し込み、お問い合わせはBOB会事務局へ。

期日	実施日	内 容	主 催
1月15日(金)	1月15日(木)	「開運」荏原七福神巡り	
1月18日(木)	1月15日(土)	成田山初詣と新年会	東京23俱楽部発足20周年記念懇親会
1月6日(木)	1月6日(土)	関東支部新年会 蕎麦打ち体験と試食会	東京23
1月25日(木)	1月23日(木)	（中止）	（中止）
1月26日(木)	1月23日(木)	（中止）	（中止）
京葉	京葉	（中止）	（中止）

キャンペーンを実施しています。
引き続きよろしくお願ひします。

「三密が心配で店へは行きたくない」、「店は予約制で予約が取りにくい」などのお声があります。

支部ホームページのBOB会・お客様紹介フォーム（Web用）を利用すると店舗に出向くことなく申し込みから支払いまでできます（ナイスギフトは対象外）。クーポンは郵送され、代金の支払いも、自宅でのカード決済や、銀行・コンビニの振り込みが可能です。ぜひ一度お試しください。

なお、「おせちの鉄人」の実績報告は年明けとなる予定です。ぜひ一度お試しください。

10月6日朝、久々の再会を喜ぶ

弾んだ声が羽村駅構内に飛び交いました。コロナ禍や今夏の酷暑を

乗りきった総勢27名は、江戸初期に完成し、江戸・東京発展の礎となつた玉川上水をたどりました。

当俱楽部の野口巻夫さんのガイドで、まず羽村駅近くの『まいま

い井戸』を見学。かたつむりの

渦巻きのような道を下りていく先

に井戸があります。続いて羽村市

郷土博物館にて玉川上水の歴史と

技術を学び、いよいよ玉川上水の

出発点、多摩川の水を引き込む羽

村堰へ。傍らには造成を指揮した

玉川庄右衛門、清右衛門兄弟の像

が今も静かに見守っています。

多摩川のたびたびの増水によつ

て流れを変えた玉川上水の痕跡を

が今も静かに見守っています。

多摩川のたびたびの増水によつ

て流れを変えた玉川上水の痕跡を

（諸税・昼食込）
参加費 1000円
担当 大谷 広一
1月5日(火)

玉川上水を歩く（第1回） 羽村堰から拝島（報告）

玉川上水を歩く（第1回）
羽村堰から拝島（報告）

（中止）
090-3096-9870
担当 大谷 広一
1月5日(火)

武蔵野俱楽部



昼食個所の料亭幸楽園にて

員苦戦しましたが、西袋哲也さんが優勝を手にしました。

また、今回もオープコンペ「お肉祭り」に参加。こちらは初参加の原田隆昌さんが3位に入賞した他、奥様も含め3名が入賞。皆、常陸牛入りレトルトカレーと和菓子のお土産を手に解散しました。

成績は次のとおり。

優勝	西袋 哲也さん	G
3位	原田 洋子さん	H
B G	新倉 武一さん	N

(西袋記)

東京23俱楽部

新年会中止のお知らせ

発足20周年記念懇親会

中止のお知らせ

当懇親会は元々本年4月に開催の予定でしたが、新型コロナ感染拡大第1波に当たり延期。満を持して、来年2月18日の開催に向けて再度準備を進めてきましたが、感染状況は高止まりが続き、未だ収束の目途がつきません。

当俱楽部としては、会員の皆様の安全と健康を最優先し、誠に残念ながら開催中止といたします。

世話人代表 岩月 光司

テニス同好会

新年会中止のお知らせ

1月8日に予定しておりましたが、新型コロナ感染の収束が見えないため、中止といたします。

定期的な練習は、ホームグラウンドの小山運動公園コートがコロナ禍で使用できいため、宇都宮

同好会だより

○いい予感

◇転んでも勝ち馬見分け乗り換える

○何故だろう悪い予感は良く当る
○見舞客急に多くて嫌な予感
○意地を捨て

△横山 信之

○9月・10月の互選句
9月の題は「予感」(○印)
10月の題は「意地」(△印)
○退院の予感うれしい八分粥
△老木の幹さえ芽吹く意地がある

手塚 実

△横山 信之
○見舞客急に多くて嫌な予感
○意地を捨て

岡田 秀雄

○秋彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○子の家に寄りて家^{いえ}苞^{くわ}茸^{じゆ}飯^{はん}
△秋冷に人を遠^としと思ひけり
○秋^{あき}彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○草狩木の葉木の枝木の根^ねつ子^こ
○来し方の思いを辿りたる夜長^{よのなが}
△民話説く里の語り部^{うわ}秋深^{ふか}し

高宮 澄子

○秋彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○草狩木の葉木の枝木の根^ねつ子^こ
○来し方の思いを辿りたる夜長^{よのなが}
△民話説く里の語り部^{うわ}秋深^{ふか}し

富岡 遊生

手塚 実

△横山 信之

○見舞客急に多くて嫌な予感
○意地を捨て

岡田 秀雄

○秋彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○子の家に寄りて家^{いえ}苞^{くわ}茸^{じゆ}飯^{はん}
△秋冷に人を遠^としと思ひけり
○秋^{あき}彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○草狩木の葉木の枝木の根^ねつ子^こ
○来し方の思いを辿りたる夜長^{よのなが}
△民話説く里の語り部^{うわ}秋深^{ふか}し

高宮 澄子

○秋彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○草狩木の葉木の枝木の根^ねつ子^こ
○来し方の思いを辿りたる夜長^{よのなが}
△民話説く里の語り部^{うわ}秋深^{ふか}し

富岡 遊生

手塚 実

△横山 信之

○見舞客急に多くて嫌な予感
○意地を捨て

岡田 秀雄

○秋彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○子の家に寄りて家^{いえ}苞^{くわ}茸^{じゆ}飯^{はん}
△秋冷に人を遠^としと思ひけり
○秋^{あき}彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○草狩木の葉木の枝木の根^ねつ子^こ
○来し方の思いを辿りたる夜長^{よのなが}
△民話説く里の語り部^{うわ}秋深^{ふか}し

高宮 澄子

○秋彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○草狩木の葉木の枝木の根^ねつ子^こ
○来し方の思いを辿りたる夜長^{よのなが}
△民話説く里の語り部^{うわ}秋深^{ふか}し

富岡 遊生

手塚 実

△横山 信之

○見舞客急に多くて嫌な予感
○意地を捨て

岡田 秀雄

○秋彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○子の家に寄りて家^{いえ}苞^{くわ}茸^{じゆ}飯^{はん}
△秋冷に人を遠^としと思ひけり
○秋^{あき}彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○草狩木の葉木の枝木の根^ねつ子^こ
○来し方の思いを辿りたる夜長^{よのなが}
△民話説く里の語り部^{うわ}秋深^{ふか}し

高宮 澄子

○秋彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○草狩木の葉木の枝木の根^ねつ子^こ
○来し方の思いを辿りたる夜長^{よのなが}
△民話説く里の語り部^{うわ}秋深^{ふか}し

富岡 遊生

手塚 実

△横山 信之

○見舞客急に多くて嫌な予感
○意地を捨て

岡田 秀雄

○秋彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○子の家に寄りて家^{いえ}苞^{くわ}茸^{じゆ}飯^{はん}
△秋冷に人を遠^としと思ひけり
○秋^{あき}彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○草狩木の葉木の枝木の根^ねつ子^こ
○来し方の思いを辿りたる夜長^{よのなが}
△民話説く里の語り部^{うわ}秋深^{ふか}し

高宮 澄子

○秋彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○草狩木の葉木の枝木の根^ねつ子^こ
○来し方の思いを辿りたる夜長^{よのなが}
△民話説く里の語り部^{うわ}秋深^{ふか}し

富岡 遊生

手塚 実

△横山 信之

○見舞客急に多くて嫌な予感
○意地を捨て

岡田 秀雄

○秋彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○子の家に寄りて家^{いえ}苞^{くわ}茸^{じゆ}飯^{はん}
△秋冷に人を遠^としと思ひけり
○秋^{あき}彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○草狩木の葉木の枝木の根^ねつ子^こ
○来し方の思いを辿りたる夜長^{よのなが}
△民話説く里の語り部^{うわ}秋深^{ふか}し

高宮 澄子

○秋彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○草狩木の葉木の枝木の根^ねつ子^こ
○来し方の思いを辿りたる夜長^{よのなが}
△民話説く里の語り部^{うわ}秋深^{ふか}し

富岡 遊生

手塚 実

△横山 信之

○見舞客急に多くて嫌な予感
○意地を捨て

岡田 秀雄

○秋彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○子の家に寄りて家^{いえ}苞^{くわ}茸^{じゆ}飯^{はん}
△秋冷に人を遠^としと思ひけり
○秋^{あき}彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○草狩木の葉木の枝木の根^ねつ子^こ
○来し方の思いを辿りたる夜長^{よのなが}
△民話説く里の語り部^{うわ}秋深^{ふか}し

高宮 澄子

○秋彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○草狩木の葉木の枝木の根^ねつ子^こ
○来し方の思いを辿りたる夜長^{よのなが}
△民話説く里の語り部^{うわ}秋深^{ふか}し

富岡 遊生

手塚 実

△横山 信之

○見舞客急に多くて嫌な予感
○意地を捨て

岡田 秀雄

○秋彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○子の家に寄りて家^{いえ}苞^{くわ}茸^{じゆ}飯^{はん}
△秋冷に人を遠^としと思ひけり
○秋^{あき}彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○草狩木の葉木の枝木の根^ねつ子^こ
○来し方の思いを辿りたる夜長^{よのなが}
△民話説く里の語り部^{うわ}秋深^{ふか}し

高宮 澄子

○秋彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○草狩木の葉木の枝木の根^ねつ子^こ
○来し方の思いを辿りたる夜長^{よのなが}
△民話説く里の語り部^{うわ}秋深^{ふか}し

富岡 遊生

手塚 実

△横山 信之

○見舞客急に多くて嫌な予感
○意地を捨て

岡田 秀雄

○秋彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○子の家に寄りて家^{いえ}苞^{くわ}茸^{じゆ}飯^{はん}
△秋冷に人を遠^としと思ひけり
○秋^{あき}彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○草狩木の葉木の枝木の根^ねつ子^こ
○来し方の思いを辿りたる夜長^{よのなが}
△民話説く里の語り部^{うわ}秋深^{ふか}し

高宮 澄子

○秋彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○草狩木の葉木の枝木の根^ねつ子^こ
○来し方の思いを辿りたる夜長^{よのなが}
△民話説く里の語り部^{うわ}秋深^{ふか}し

富岡 遊生

手塚 実

△横山 信之

○見舞客急に多くて嫌な予感
○意地を捨て

岡田 秀雄

○秋彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○子の家に寄りて家^{いえ}苞^{くわ}茸^{じゆ}飯^{はん}
△秋冷に人を遠^としと思ひけり
○秋^{あき}彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○草狩木の葉木の枝木の根^ねつ子^こ
○来し方の思いを辿りたる夜長^{よのなが}
△民話説く里の語り部^{うわ}秋深^{ふか}し

高宮 澄子

○秋彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○草狩木の葉木の枝木の根^ねつ子^こ
○来し方の思いを辿りたる夜長^{よのなが}
△民話説く里の語り部^{うわ}秋深^{ふか}し

富岡 遊生

手塚 実

△横山 信之

○見舞客急に多くて嫌な予感
○意地を捨て

岡田 秀雄

○秋彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○子の家に寄りて家^{いえ}苞^{くわ}茸^{じゆ}飯^{はん}
△秋冷に人を遠^としと思ひけり
○秋^{あき}彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○草狩木の葉木の枝木の根^ねつ子^こ
○来し方の思いを辿りたる夜長^{よのなが}
△民話説く里の語り部^{うわ}秋深^{ふか}し

高宮 澄子

○秋彼岸^{たなば}屯^{たのま}ろう人の影除^{よけ}けて
○草狩木の葉木の枝木の根^ねつ子^こ
○来し方の思いを辿りたる夜長^{よのなが}
△民話説く里の語り部^{うわ}秋深^{ふか}し

富岡 遊生

手塚 実

△横山 信之

○見舞客急に多くて嫌な予感
○意地を捨て

岡田 秀雄

○秋彼岸^{たなば}屯

